

連載 「沖縄の有用植物資源」 第2回 — モモタマナ —

開発研究部 市場 俊雄 照屋 正映
豊川 哲也 鎌田 靖弘

『沖縄の有用植物資源』第2回目は、モモタマナを紹介したいと思います。

モモタマナは、アジアからポリネシアの熱帯、亜熱帯地域の海岸に広く分布するシクンシ科の樹木で、別名で「コバテイシ」や「シマボウ」とも呼ばれています。方言では、「クワディーサー」と呼ばれています。樹形は傘状に広がり、葉は大きく、落葉前に紅葉します。果実の胚の部分はアーモンドの風味を持ち、炒って食用にできるそうで、英名でインディアンアーモンドと呼ばれています。また脂肪分はカタツバ油の原料にもなるそうです。

モモタマナ(シクンシ科)

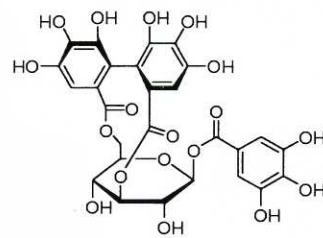


学名: *Terminalia catappa* L.

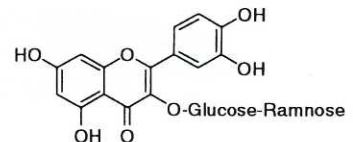
工業技術センターでは、これまで文部科学省が実施する科学研究費補助金地域連携推進研究費事業および沖縄県が実施する沖縄産学官共同研究推進事業において琉球大学医学部や県内企業などと共同研究を行い、フリーラジカル消去効果を有するポリフェノール類を分離しその効果を検証してきました。その結果、モモタマナは果実だけではなく、葉にもタンニン(ケブラグ酸、コリラジン等)を多く含み、またその他のポリフェノール類としてフラボノイド類(イソクエルシトリン、ルチン等)も豊富に含んでいることが分かりました。

また、工業技術センターにおける機能性試験においても、抗肥満の指標となるリパーゼ阻害活性試験や血糖値上昇

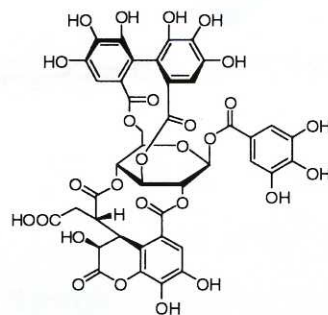
抑制の指標となる α -アミラーゼ阻害活性試験、肝ガン由来細胞に対する選択的細胞毒性試験において良好な結果が出ており、今後の活用が期待される植物です。



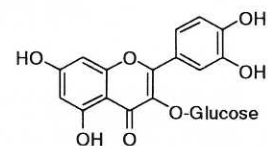
コリラジン



ルチン



ケブラグ酸



イソクエルシトリン

参考文献

- ・世界有用植物事典 堀田満ほか編集、1996年発行 平凡社
- ・平成10年度 地域コンソーシアム研究開発事業「有用生物資源の多目的利用のための加工製造システムの研究開発」成果報告書 P59-75
- ・平成11-13年度科学研究費補助金 地域連携推進研究費(2)「沖縄産天然抗酸化物質の健康保持薬としての開発に関する薬理・化学的研究」研究成果報告書 P47-55